

# 有限の継承が無限を実現する

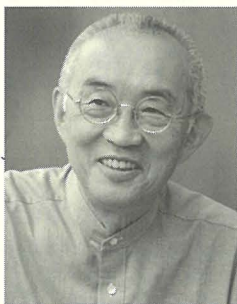
東京大学名誉教授  
つきおよしお  
月尾嘉男

## 絶滅は悲劇ではなく飛躍の機会

約二億三〇〇〇万年前に登場し、地上、水中、空中に繁栄していた恐竜は約六五〇〇万年前に突如絶滅した。このとき同時に地球の生物の約七〇%が絶滅したと推定されている。それ以前にも、判明しているだけで四度の大量絶滅が発生しており、とりわけ約二億五〇〇〇万年前には、当時棲息していた生物の約九

五%が絶滅した。原因は小型の惑星の衝突や巨大な規模の火山活動などであるが、このような事例が象徴するように、生物は安定して発展してきたわけではない。

これは一見すると悲惨な事件のようであるが、その絶滅以後からは生物の爆発と表現されるような新種の生物が大量に発生している。現在の生物世界の頂点に君臨する哺乳動物も、恐竜の絶滅による環境の激変



以後に発生してきた種類である。同様の仕組みは短期の自然環境変化にも存在している。広大な森林火災は各地で毎年発生するが、それにより森林が再生されるので、人命に影響しなければ、むやみに消火しないのが最近の処置である。

## 破壊なき継承は破綻に到達

さらに自然環境だけではなく、社会環境にも類似の現象は数多く存在する。昨年の衆議院議員総選挙では過去最大の一八四名の新人が当選し、世襲状態は以前より緩和されたものの、それまでは四八〇名のうち一八五名、すなわち約三九%が二世や三世の世襲議員であった。国民の代表である議員が少数の家族の職業となつて選挙により更新されないことが、現在の日本の政治の停滞状況に影響しているという意見は多数である。

近世以後で日本の経済ひいては国力が躍進したのは明治時代初期と第二次世界大戦終了後である。前者では約二六〇年間、社会を支配していた体制が崩壊し、そこに帰属した階級が衰退したことによって新規勢力が台頭し、日本を牽引した。後者は戦前の支配階級が公職追放や財閥解体などにより退場し、その間隙に戦後の日本の産業を躍進させた新興企業が誕生した。森林火災の直後から新芽が発生すると同様の経緯で

ある。

反対に「売家と唐様で書く三代目」という江戸時代の川柳は、同族経営の世襲企業も三代目経営者となると破綻する場合が多々あることを表現している。実際、現代でも世襲社長などが企業を破綻させている事例は数多く存在するし、絶大な権限を保持する名経営者が長年君臨した結果、企業活動が色褪せ、衰退していく事例も少数ではない。それは周囲の環境が変化のない温室状態で企業組織が更新されないからである。

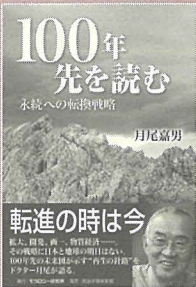
## 有限の継承は日本文化の神髄

本号の無限と有限という主題も絶滅と再生の関係にある。大量絶滅が証明するように自然環境に無限は存在しないし、社会環境も同様である。見方によっては無限という信仰が社会環境を阻害する側面すらある。交通手段は無限の安全、すなわち事故ゼロを前提として運営されるが、現実には事故は発生する。この矛盾を明示したのが福島第一原子力発電所の事故であり、無限の安全という概念は実在社会では虚構であったこと

を証明した。

しかし、人間の精神には無限が存在する。古来、人々は長寿を希求し、企業は永続を目指すのが、いずれは個体である人間にも、繁栄する企業にも終焉は到来する。それを打破する叡智が世代から世代へと継承していく作業である。人間は子孫を誕生させることにより永遠の生命を実現し、企業は有為の人材を発掘することにより永続の操業を目指す。すなわち、有限の継承が人間のみが獲得した無限という精神を実現するのである。

今年には日本の精神の二大根源である伊勢神宮の二〇年ごとの式年遷宮と出雲大社のほぼ六〇年ごとの造営遷宮が重複する記念すべき祝年である。遷宮の本質は、老朽した建物を更新して伝統を継承することではない。神々が常若であるための清浄な空間を用意することである。これこそ数十年間という単位の有限を繰返し継承することにより無限を実現する日本文化の神髄である。世界にも希有な無限の実現の伝統を矜恃すべきである。



絶賛発売中!!  
ご注文は巻末ハガキで